

■（１００）あの有名記者が新聞社を辞めた！

スーパーマンの仮の姿、クラーク・ケントが、コミック最新号で長年勤めてきた新聞社を辞めた。上司に「スクープ記事が少ない」としかられ、逆に「新聞がジャーナリズムではなく、エンターテインメントになっている」と同僚の前で抗議して、決断したという。

日本の新聞はそれほど「娯楽」には走っていない。むしろ、最前線の記者は彼と同じ思いで仕事している。「記者は志の職業」と表現する上司がいた。「社会をよくしたい」といった決意がないとできない、との意味だった。この欄も、先生方に少しでも新聞に関心を持っていただきたいとの思いで続けてきた。この間、没になった原稿が１本ある。見出しは「記者の生き方も投影される『死亡記事』」。コント５５号の坂上二郎さん死去のニュースに合わせて、内容の濃い追悼記事を書けるかどうかは、記者の普段からの仕事や養ってきた取材力にかかっている、ということを伝えたかった。掲載予定が２０１１年３月１１日だった。

ケントは今後、ネットを通じたニュース発信を試みる可能性があるという。日本でも電子新聞の発刊が相次ぐ。米国発の漫画からもまた、新聞界の変化を実感させられた。

（山）